

「人類の脅威」としてのエイズ・結核・マラリアを終わらせるため、 日本政府の貢献を 今こそ、これまで以上にお願いします。

内閣総理大臣 石破 茂 殿
厚生労働大臣 福島 資麿 殿
外務大臣 岩屋 毅 殿

署名本文

世界中で多くの人命を奪ってきた「世界の三大感染症」エイズ、結核、マラリア。今世紀に入って、世界全体で取組が進められ、三大感染症で亡くなる人は 20 年前と比較して6割減と、非常に大きな成果が出ています。しかし、それでも年間約 230 万人が三大感染症で命を落としています。

私たちが変えたいこと、それは、エイズ・結核・マラリアなど、治療可能な感染症で多くの人々が命を落とす、そんな世界を変え、「人類の脅威」としてのエイズ、結核、マラリアを終わらせたい、ということです。これは、SDGs の目標の一つ(ターゲット 3.3)にもなっています。実現のカギになるのが、途上国の三大感染症対策に資金を拠出する国際機関、「グローバルファンド」(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)です。

G8 九州・沖縄サミットをきっかけに、2002 年に設立されたグローバルファンドは、この 23 年間で合計 690 億ドル(9 兆6千億円)を途上国のエイズ・結核・マラリア対策に拠出し、世界 6500 万人の命を救いました。また、2023 年1年間で、他の機関とも連携して、2500 万人のエイズ治療、710 万人の結核治療が実現、マラリア予防のための蚊帳も 2270 万枚提供されています。

グローバルファンドは3年に1回資金集め(増資)を行い、その資金を対策に充てる仕組みとなっています。今年(2025 年)は、8回目の増資の年となっており、ここで集められた資金は、2027-29 年に、世界の百を超える国々の三大感染症対策に活用されます。目標額は3年分合計で 180 億ドル(2.5 兆円)。この金額が集まれば、27-29 年の3年間で 2300 万人の命を救い、三大感染症で亡くなる人の数を、現在の 230 万人から、一桁少ない 92 万人にまで減らすことができます。

日本はこれまでアメリカ・フランス・ドイツ・イギリスに次ぐ世界第5位の拠出国で、全体の約6%を拠出してきました。一方、結核の治療薬、検査薬・検査装置、マラリア予防のための蚊帳、現地のプロジェクトで活用する自動車など、多くの日本の製品が、その有用性を評価されてグローバルファンドの資金で購入され、各国の製品と共に現地のプロジェクトに活用されています。グローバルファンドの資金による日本製品の売上額は、インド、米国、スイス、中国などとともに上位に入っています。

ところが、残念なことに、アメリカ政府はこの 1 月、エイズ・結核・マラリア対策を含む対外援助のほとんどを停止し、大規模な見直しと減額を検討しつつあります。他の一部先進国も、国際協力的大幅カットを発表しています。これが現実になれば、最大数百万人の貴重な人命が奪われ、「三大感染症を終わらせる」どころか、これまでの成果が失われることになります。

私たちは「三大感染症を終わらせる」歩みを止めることはできません。日本が他の国々と連携・協力しつつ、グローバルファンドに必要額を拠出することで、世界各国で質の高い日本製品が活用され、2030 年までに、なんとか、人類がエイズ・結核・マラリアの脅威から解放される状況を実現したい。それが私たちの思いです。これまでの努力をより強め、続けることで、それは可能です。

要望事項:以上より、私たちは日本政府に、以下のことをお願いします。

1. グローバルファンドの第8次増資¹に、増資目標額 180 億ドルの6%(10.8 億ドル)の拠出を誓約してください。
2. 人類の脅威としてのエイズ・結核・マラリアを終わらせ、全ての人が適切な保健サービスを受けられるように、先進国・途上国の連携作りを主導してください。

<署名サイトへの案内>

Change.Org オンライン署名 こちら ⇒		AJF 署名紹介サイト⇒		インスタグラム 署名紹介サイト⇒	
---	---	--------------	---	---------------------	---

※署名呼びかけ:(特活)アフリカ日本協議会 後援:NGO・労働組合同国際協働フォーラム

〒110-0015 東京都台東区東上野1丁目20-6 丸幸ビル3階

連絡先: 電話番号 03-3834-6902 メールアドレス info@ajf.gr.jp

¹ グローバルファンドの第8次増資で集めた資金は、2027-29 年の世界のエイズ・結核・マラリア対策に活用されます。2月に示された「投資計画」で、必要金額は 180 億ドルと設定されています。